

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年3月16日(2006.3.16)

【公表番号】特表2005-538930(P2005-538930A)

【公表日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2005-050

【出願番号】特願2003-564087(P2003-564087)

【国際特許分類】

C 0 7 K	19/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/14	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
C 1 2 N	5/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)

【F I】

C 0 7 K	19/00	Z N A
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	1/14	
A 6 1 P	3/04	
A 6 1 P	3/06	
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
C 0 7 K	14/47	
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
C 1 2 N	5/00	D
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月24日(2006.1.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第一ポリペプチドおよび第二ポリペプチドを包む実質的に純粋なタンパク質複合体であって、第一ポリペプチドが配列番号：1のアミノ酸配列を含み、第二ポリペプチドが配列番号：2、3、4、5、6または7のアミノ酸配列を含むものであるタンパク質複合体。

【請求項2】

第二ポリペプチドが配列番号：2のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のタンパク質複合体。

【請求項 3】

第二ポリペプチドが配列番号：3のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のタンパク質複合体。

【請求項 4】

第二ポリペプチドが配列番号：4のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のタンパク質複合体。

【請求項 5】

第二ポリペプチドが配列番号：5のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のタンパク質複合体。

【請求項 6】

第二ポリペプチドが配列番号：6のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のタンパク質複合体。

【請求項 7】

第二ポリペプチドが配列番号：7のアミノ酸配列を含む、請求項1に記載のタンパク質複合体。

【請求項 8】

F O X C 2 発現または活性に関する病状の処置または予防に有効な量の請求項1のタンパク質複合体および製薬的に許容可能な担体を含む医薬組成物。

【請求項 9】

F O X C 2 発現または活性を変調するための医薬組成物であり、細胞にてF O X C 2 の発現または活性を変調するために十分な量の配列番号：2、3、4、5、6または7のアミノ酸配列を含むポリペプチド、またはポリペプチドをコードする核酸を含み、F O X C 2 を発現する細胞と接触させられることを特徴とする医薬組成物。

【請求項 10】

変調されたF O X C 2 活性によって処置可能な病状の処置または予防のための医薬組成物であり、変調されたF O X C 2 活性によって処置可能な病状の処置または予防に有効な量の配列番号：2、3、4、5、6または7のアミノ酸配列を含むポリペプチドおよび製薬的に許容可能な担体を含み、そのような処置または予防を必要とする患者に対して投与されることを特徴とする医薬組成物。

【請求項 11】

病状がF O X C 2 活性の増大によって処置され得る、請求項10に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

病状が肥満症、高トリグリセリド血症、食事誘導インスリン抵抗性または2型糖尿病である、請求項11に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

病状がF O X C 2 活性の減少によって処置され得る、請求項10に記載の医薬組成物。

【請求項 14】

病状が食欲不振である請求項13に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

F O X C 2 タンパク質複合体の形成を変調する物質を同定する方法であって、

(i) 候補物質の存在下にて配列番号：1のアミノ酸配列を含む第一ポリペプチドと配列番号：2、3、4、5、6または7のアミノ酸配列を含む第二ポリペプチドとを接触させ

；

(i i) 候補物質の存在下における第一ポリペプチドと第二ポリペプチド間の複合体の形成を測定し；そして、

(i i i) 候補物質の存在下における第一ポリペプチドと第二ポリペプチド間の複合体の形成と、候補物質の不存在下における第一ポリペプチドと第二ポリペプチドの複合体の形成とを比較し、

そのことにより候補物質がF O X C 2 タンパク質複合体の形成を変調するかどうかを決定することを含む方法。

【請求項 16】

F O X C 2 活性を変調する物質を同定する方法であって、

(i) 候補物質の存在下に配列番号： 1 のアミノ酸配列を含む第一ポリペプチドと配列番号： 2、3、4、5、6 または 7 のアミノ酸配列を含む第二ポリペプチドとを接触させ、

(i i) 候補物質の存在下における第一ポリペプチドの F O X C 2 活性を測定し；そして、

(i i i) 候補物質の存在下における第一ポリペプチドの F O X C 2 活性と候補物質の不存在下における第一ポリペプチドの F O X C 2 活性を比較し、

そのことにより候補物質が F O X C 2 活性を変調するかどうかを決定することを含む方法。

【請求項 17】

F O X C 2 活性を変調する物質を同定する方法であって、

(i) 配列番号： 2、3、4、5、6 または 7 のアミノ酸配列を含む第一ポリペプチドと候補物質とを接触させ、

(i i) 第一ポリペプチドと結合する候補物質を決定し、

(i i i) 配列番号： 1 のアミノ酸配列を含む第二ポリペプチドと候補物質を接触させ、

(i v) 候補物質の存在下における第二ポリペプチドの F O X C 2 活性を測定し；そして、

(v) 候補物質の存在下における第二ポリペプチドの F O X C 2 活性と候補物質の不存在下における第二ポリペプチドの F O X C 2 活性を比較し、

そのことにより候補物質が F O X C 2 活性を変調するかどうかを決定することを含む方法。

【請求項 18】

変調された F O X C 2 活性によって処置可能な病状の処置または予防のための医薬組成物であって、変調された F O X C 2 活性によって処置可能な病状の処置または予防に有効な量の請求項 15 の方法によって同定された物質および製薬的に許容可能な担体を含み、そのような処置または予防の必要な患者に投与されることを特徴とする医薬組成物。

【請求項 19】

病状が F O X C 2 活性の増大によって処置され得る、請求項 18 に記載の医薬組成物。

【請求項 20】

病状が肥満症、高トリグリセリド血症、食事誘導インスリン抵抗性または 2 型糖尿病である、請求項 19 に記載の医薬組成物。

【請求項 21】

病状が F O X C 2 活性の減少によって処置され得る、請求項 18 に記載の医薬組成物。

【請求項 22】

病状が食欲不振である請求項 21 に記載の医薬組成物。

【請求項 23】

F O X C 2 相互作用タンパク質を精製するための方法であって、

(i) 配列番号： 1 のアミノ酸配列を含む F O X C 2 タンパク質および配列番号： 2、3、4、5、6 または 7 のアミノ酸配列を含む F O X C 2 相互作用タンパク質を包含するタンパク質複合体と、前記タンパク質複合体に結合する抗体とを接触させ；そして、

(i i) 前記タンパク質複合体から F O X C 2 相互作用タンパク質を精製することを含む方法。